

令和4年度第24回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える課題

【日 時】 令和5年1月19日（木） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】 西岐波ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 西岐波地区コミュニティ推進協議会会長 : 中村 達章 西岐波地区社会福祉協議会副会長 : 山本 隆士 西岐波地区自治会連合会副会長 : 藤高 和久 西岐波地区婦人連絡協議会会長 : 増田 真由美 西岐波小学校PTA会長 : 工藤 玲子 ○総合政策部 ○事務局（広報広聴課、西岐波ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】 1 開会 2 出席者紹介 3 参加者と市長との意見交換 4 閉会
【意見交換・懇談】
○白土海岸（海水浴場）の地域利用について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・宇部市行財政改善委員会の提言を受け、海水浴場としての活用が難しいのであれば、地域資源としての活用方法を市と協議したい。 ・2011年に松の植栽を実施し、現在では5メートル程度まで生育しているが、地域での維持管理には限界があり市の協力が不可欠である。 ・市制施行100周年記念事業の一環として、シャワー棟の壁面に幼稚園児や小中学生によって描かれた壁画が完成する。 ・リフレッシュ瀬戸内による海岸清掃や白土サンセットフラフェスタ等の事業を通じて、地域の憩いの場として、美しい海岸を維持したい。 【自治会連合会副会長】 ・白土海岸の活用のためには駐車場の確保が不可欠である。小中学校も環境学習の一環として海岸清掃を行っており、地域の貴重な資源としての認識も高い。現在、市の駐車場がなく、地権者に民有地を借りなければ、環境整備等のボランティア活動を実施できない現状を改善してほしい。 【小学校PTA会長】 ・子どもたちも白土海岸への強い愛着があり、海岸清掃にも積極的に参加している。 ・駐車場の確保や枯れた松の伐採、回収等は、地域のみだけでは限界があり、市の協力

を得ながら、きれいな海岸環境を維持していきたい。

【市長】

- ・令和3年度宇部市行財政改革委員会の提言は、あくまでも海水浴場としての機能の見直しであり、引き続き貴重な観光資源として維持管理する。
- ・来年度、地域のSDGs活動への助成金制度の創設を検討している。海岸清掃等の活動は、海の資源を守るSDGsの目標に該当することから、この助成金制度の活用を検討してほしい。
- ・市が、駐車場として民有地を取得することは現状では難しい。民有地の借地料を含めた地域活動に対して助成を行うことが現実的だと考える。また、大規模なイベントであれば、バスのピストン輸送で小学校や床波漁港などから白土海岸へ移動することも考えていきたい。

○二十歳の集いの当該者（20歳）名簿の提供について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・敬老行事の際に提供される高齢者名簿のように、地域で成人を祝うための当該者名簿を提供していただきたい。名簿の提供が難しければ、住民基本台帳の閲覧により、該当者のデータの抽出が可能かどうか検討してほしい。

【市長】

- ・二十歳の集いの当該者の名簿提供については、個人情報保護対策審議会に諮問しても承認を受けられないと考えている。高齢者名簿の外部提供は、老人福祉法の趣旨に添い、行事の円滑な運営に協力することで諮問し承認を受けている。
- ・住民基本台帳の閲覧は、住民基本台帳法に「公共的団体が行う地域住民の福祉の向上に寄与する活動のうち、公共性が高いと認められるものの実施」と規定されており、その運用は限定される。

○避難所開設時の公共施設の利用制限について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・避難所の開設指示があった際には、小学校体育館の利用制限の基準を明確にし、利用者に周知し、避難所の開設に支障がないように運用してほしい。
- ・市より提供を受けたハイブリッド発電機（ガソリン・プロパンガス）の騒音がひどく、災害時に使用できない。プロパンガスも提携業者しか使用できないと聞いている。

【市長】

- ・体育館を管理する利用者への連絡網に不備があったため、連絡体制を整えた。
- ・市民の生命を最優先に、災害対策本部の決定後は、速やかに体育館を避難所として開設するよう徹底した。
- ・ハイブリッド発電機の件については、確認のうえ対応する。

○地域で開催しているサロンにかかる経費への助成について

【社会福祉協議会副会長】

- ・地域で開催する「ご近所ふれあいサロン」は、市社協と地区社協の助成金で運営しているが、不足分は自治会等が負担しているため、市の助成金の増額を検討してほしい。サロンでは、健康体操教室とラジオ体操を開催し、誕生日や夏休み終了時にプレゼントを渡したり、飲食物を提供しているが、自治会以外の参加者も多いため、自治会費からの負担が難しい。

【市長】

- ・週1回以上開催されている「ご近所福祉サロン（元気づくり型・お出かけ型）」は、市社協を通じて市から助成をしている。景品代や飲食費等の経費に税金を投入することは、公平性の観点から難しい。
- ・介護予防の一環として、歯科医師、薬剤師、理学療法士などの医療専門職をサロンに派遣することは、市の事業として実施しており、地域の費用負担はないため活用をお願いしたい。

○防犯灯の電気料金の助成について

【社会福祉協議会副会長】

- ・防犯灯の電気料金を助成できないか。

【市長】

- ・防犯灯の助成制度を開始し10年近く経過している。LED電灯の寿命が10年といわれており、今後は切替えのための助成を優先するため、現状では電気料金の助成は難しい。

○子ども会の加入者の減少について

【社会福祉協議会副会長】

- ・子ども会の加入者が減少している。子ども会に入ると、市子連の役員をやらされて大変になるということを知っている。

【市長】

- ・子ども会の存続には強い危機感を持っている。子ども会が、地域活動の担い手を育成する重要な組織と認識しているが、現在の加入率は16%まで下がっている。子ども会は任意の団体であるが、役員の兼任や入会条件の見直し等の負担軽減や子ども会の良さを訴求し、マイナスイメージの払拭について検討するよう提言させていただいた。

○子どもの不登校について

【社会福祉協議会副会長】

- ・子どもの不登校を見聞きした際には学校に相談しているが、その後の状況が掴めないケースが多い。学校に現状確認をすることは問題になるのか。

【市長】

- ・子どもたちを守る環境が非常に厳しい状況にある。地域の見守り活動を通じて不安に思う子どもを目にした際には、ぜひ学校に相談してほしい。ただし、その後の経過については、個人情報に関わる部分があり開示ができないことをご了承いただきたい。学校のほかに、保健師、ソーシャルワーカー、児童相談所等の行政・教育機関を通じて対応することも可能である。

○若者を惹きつける魅力あるまちづくりについて

【婦人連絡協議会会長】

- ・子どもを育む生活環境は良いが、街が暗く活気がない。若者を惹きつける施策を実施してほしい。

【市長】

- ・若い方々から施設や居場所づくり等の政策提言をたくさんいただいている。
- ・今後、常盤通り周辺でスケートボード、BMX、3人制バスケットボール、ブレイクダンス等のアーバンスポーツができる施設の整備を検討していく。今年の夏頃には、日本アーバンスポーツ協会と連携して大きなイベントの誘致を予定している。
- ・まちじゅうエヴァンゲリオンを開催し、2年連続でアニメの聖地として認定を受けた。アーバンスポーツやエヴァンゲリオンといった市の強みをまちづくりに活かしていく。

○暴風雨に伴うふれあいセンターへの浸水について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・令和4年9月に発生した台風14号による暴風雨で、避難場所であるふれあいセンター東側の和室や会議室で、サッシの間から雨水が吹き込み、浸水があった。公共施設として構造上の問題があるのではないか。

【市長】

- ・雨水の吹き込みの件については、確認のうえ対応する。

○大きな公園の整備について

【小学校PTA会長】

- ・西岐波地区には、子どもたちがのびのびとスポーツを楽しめる広場がない。球技ができる程度の広場を整備してほしい。

【市長】

- ・今後、山口宇部空港公園の公園内にインクルーシブ遊具を整備していく。
- ・皆さまからのご意見をいただき、優先順位も考え、スポーツが楽しめる広場の設置を検討したい。